

## 【愛知】ワクチン大規模集団接種などで貢献し「市民病院」的存在感を高めたい-度会正人・安城更生病院病院長に聞く◆Vol.2

2021年8月6日（金）配信 m3.com地域版

西三河南部西医療圏で主に急性期医療やがん診療を担う、安城更生病院。安城市の市民病院的役割とともに圏域の高次医療を担う中核病院として地域医療を支えてきたが、人口増加と高齢化によって増え続ける需要に応えるべく、2022年まで発展的再構築と題した大規模な施設整備を進めている。高度急性期医療、がん診療、災害拠点病院としてさらなる進化を遂げるための、新棟建設や既存棟改修について、また発展的再構築によってもたらされる変化や、地域医療の展望について病院長の度会正人氏に話を聞いた。（2021年7月1日インタビュー、計2回連載の2回目）

▼第1回は[こちら](#)



安城更生病院病院長 度会正人氏

### ——高精度放射線治療棟と新棟が新たに建設されますが、既存の建屋はどうなるのですか。

それが発展的再構築の三つ目の柱で、既存の建屋も変化します。まずは、内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、より低侵襲な手術を提供できるようになります。あわせて手術室を2室増室し、外科系の集中治療室も開設します。また、新棟へ移転後の通院治療センター跡地に歯科口腔外科のエリアを移転し、歯科口腔外科領域の充実を図ります。さらに健診センター跡地には入退院支援センター（PFM）を新設し、入院前から退院後まで多職種が関わりサポートを行い、より安心して入院していただけるよう努めます。加えて、患者レストランの拡張やカフェの新設によってアメニティーも向上するでしょう。

既存棟の改修完了は2022年6月を予定しています。

### ——発展的再構築の計画を進めていく段階で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が蔓延しましたが、影響を受けましたか。

当院は感染症指定病院でない3次救急施設として、救急を含めた通常の医療を守ることが地域における役割だと考えていました。しかし、2021年1月に第3波によって地域の病床が逼迫してからは、重症・中等症患者を受け入れ、最大で20人強のCOVID-19患者の入院を受け入れていました。一方外来は受診控えや健診控え、良性疾患の患者が減少し、全体として診療抑制傾向にあったため、なんとか対応できましたが、2～3月はCOVID-19の病床確保のため救急患者の受け入れが危うい状況になりました。経営的には予想外の痛手となりましたが、このような状況下でも再構築の計画は予定通りに進められています。

安城市は愛知県でもCOVID-19ワクチン接種者数がトップクラスです（2021年7月初旬現在）。医師会、自治体などの関係性が良く、ワクチン接種を円滑に進められています。当院も、個別接種の実施や県の大規模集団接種会場としてワクチン接種を進めるとともに、市の集団接種や職域接種などに人材を派遣しております。

### ——安城更生病院が再構築されることによって、地域医療へどんなインパクトがあると思いますか。

当院が高度急性期医療を担う病院として機能強化することにより、地域の医療機関と機能分化と連携をより強固なものにし、地域全体の医療の質向上に貢献したいと考えています。

もともと安城市医師会と当院の関係は非常に良好で、人材面でも交流があり、互いに協力し合える関係がつくられています。また西三河南部西医療圏の急性期医療への対応にかかる刈谷豊田総合病院、西尾市民病院、八千代病院、碧南市民病院5病院で協定を締結し、協調して当医療圏へ医療を提供しています。こうした関係性により、新専門医制度において地域の連携病院で当院の医師が研修することで規模の違う病院で経験を積むことができたり、人手不足の病院側からは即戦力として歓迎されたり、win-winの関係で人材交流が奏功しています。

こうした関係を背景に、新専門医制度における異動研修では、当院プログラムの専攻医が圏域の連携病院へ異動し、規模も背景も異なる病院で人事交流ができるのも、大学医局とのつながりを大切にし、教育・研修に力を入れてきたからです。教育研修・臨床研究支援センターを2006年に立ち上げ、いち早く指導医の育成やチューター制度などを取り入れて、研修医が働きたくなる環境づくりに努めてきました。初期研修から後期研修を通じて当院で受け入れ、腰を据えて学べる環境も好評を得ています。

さらにクリニックとの連携も強固なものです。当院は500の医療機関が連携施設として登録していただいています。この連携を生かして各科ごとの勉強会も行っています。コロナ禍で開催が難しいこともありますが、こうした横のつながりが地域医療のベースとなり、スムーズな相談・紹介へとつながっていると思います。

良好な関係を基盤にしながらかつて当院が生まれ変わることで、地域全体の医療機能の低下を押しとどめる力になりたいと思います。高度急性期医療やがん治療を支える医療機関としての当院の責務はより大きくなっていくでしょう。

当院は愛知県厚生農業協同組合連合会を母体としていますが、市民病院のない安城市の“市民のための病院”という側面が大きいのです。安城市の行政の理解や後ろ支えも大きなものだと感じます。病院設立時より大切にしている地域のためという理念を貫きながら、新たな一歩を踏み出したいと思います。

#### ◆度会 正人（わたらい・まさひと）氏

1985年名古屋大学医学部卒業。2020年4月より安城更生病院病院長。日本内科学会認定内科医・指導医。日本循環器学会専門医・評議員。日本心血管インターベンション学会名誉専門医。名古屋大学臨床教授。名城大学臨床教授。

【取材・文・撮影＝鈴木満優子】